問　農事研究機關ノ統合ニ關スル方針如何

答　朝鮮農業ノ飛躍的發展ヲ圖リ各種農產物ノ劃期的增產ヲ期センガ為ニハ優秀ナル朝鮮獨自ノ農業技術ヲ廣ク普及セシメ技術水準ヲ高度化スルノ要切ナルモノアリ　然ルニ朝鮮農業技術推進ノ根源タルベキ農業試驗研究機關ノ現狀ハ制度施設運營共ニ多大ノ缺陷ヲ有シ時局ノ要求ニ即應セザルモノアルヲ以テ速ニ各道ノ農業試驗研究機關ヲ整備統合本府ニ移管シ中央機關ノ統轄ノ下ニ國土計畫的見地ニ基ク一貫セル方針ニ依リ系統秩序アル研究調查ヲ行ヒ得ルガ如ク制度上ノ措置ヲ講ジ朝鮮農業開發ノ原動力タル機能ヲ發揮セシメントス

從來ノ機構ニ於テハ各道試驗機關ハ行政區域別ニ各々ノ立場ヨリ設置セラレシ結果運營施設共ニ或ハ重復シ或ハ樞要ナル地帶ニ施設無キ等適切ヲ缺ク事例多ク又人員設備等ニ於テ質量共ニ極メテ貧弱ニシテ獨立ノ機關トシテ業績ヲ擧グルニ足ル內容ヲ有スルモノ少キヲ以テ此等ヲ統合シ系統秩序アル研究調查ヲ為シ得ルガ如キ措置ヲ講ズルト共ニ各部門別ノ連絡ヲ緊密ニシ農家經營農村社會ニ對スル研究調查ヲ行フ部門ヲ新シク設ケ研究結果ヲ農家ノ實際ニ速ニ適合セシメントス

尚農業指導者ノ資質ノ向上ヲ圖ル為ニ之ガ訓練

REEL No. A-0554
0197
アジア歴史資料センター

施設ヲモ併置セントス

以上ノ目的ノ為ニ中央機關トシテハ現在ノ總督府農事試驗場本場ヲ強化シ新ニ研究並ニ事業ノ企畫調整ヲ圖ル部門及ビ農村及農業經營ニ關スル調查研究ヲ行フ部門ヲ設ケ試驗研究ニ綜合性ヲ附與セシムルト共ニ既存ノ總督府農事試驗場支場又ハ道農事試驗場ヲ主体トシ種畜場種羊場及原蠶種製造所等ヲ統合シ之ニ經濟經營部ヲ新設シテ綜合的機能アル第一次研究機關トシ主要農業地帶ニ配置ス　更ニ第二次機關ヲ之ニ所屬セシメ個別的ノ研究又ハ種苗種畜原蠶種ノ生產等ヲ担當セシム

以上ノ計畫ニ基ク農業研究機關ノ改編統合ハ現下ノ狀勢ニ鑑ミ急速ニ實現ノ要アルモ人員資材ノ關係ヲ考慮シ昭和十九年度ニ於テハ道費經營ノ各種研究機關ノ國營移管並ニ本府種羊場ノ統合所要人員ノ配置替樞要箇所ニ對スル既存定員ノ昇格配置等ヲナシ尚技術員養成訓練ハ當分見習生制度ヲ踏襲シ宿舍其ノ他ノ設備ノ許容シ得ル範圍內ニ於テ極力多數ヲ養成セントスルモノナリ

REEL No. A-0554

0198

アジア歴史資料センター

問　農業團体整備ノ方針如何

答一　整備ノ對象タル農業團体ノ種類

農業ノ指導奬勵ヲ行フ農會、庶民金融ヲ業務トスル金融組合、販賣購買及利用事業ヲ爲ス産業組合ノ三種トス

二　農業團体ノ現況

(一)農會ハ大正十五年三月農業ノ改良發達ヲ圖ルコトヲ目的トシ設立セラレ現在府郡島農會二三九、道農會一三、朝鮮農會一アリ設立ノ目的達成ノ爲官ノ協力機關トシテ各種勸農施設ヲ爲シ朝鮮農業發達ニ貢献スル所極メテ大ナルモノアリテ其ノ事業ノ徹底ヲ期スル爲昭和七八年頃ヨリ農産物ノ販賣及農業用資材ノ購買斡旋ニ積極的ニ進出シ其ノ取扱高昭和十七年度ニ於テハ四一九八九千円ニ達セリ

(二)金融組合ハ明治四十年五月設立セラレテ以來遂年順調ナル發達ヲ遂ゲ全鮮ニ亘リ確呼タル組織網ヲ確立シテ業務ノ拡充ヲ圖リ庶民金融機關トシテ異常ナル發達ヲ遂ゲ現在組合數六一六(支所二九二)聯合會一(支部一七)ヲ有ス金融組合ハ設立以來指導金融ニ意ヲ用ヒタルカ昭和十年金融組合ノ下部組織タル殖産契ノ制ハ公定施セラルルニ及ビ之ガ指導ノ爲農産物及農業用品ノ販賣及購買ノ斡旋ニ積極的ニ進出スルニ至リ其ノ取扱高ハ昭和十七年度ニ於テ五二四四八六千円ニ達スルニ至レリ

(三)産業組合ハ大正十五年三月創設セラレ販賣購買及利用事業ヲ其ノ本來ノ使命トシテ活動セルモ其ノ多クハ事業成績良好ナラザルノミナラズ農會及金融組合ノ活動ニ制セラレ且ハ経済統制ノ強化ニ伴ヒ取扱物資ノ縮少ヲ余儀ナクセラルル等事業ノ興営益々困難トナ

REEL No. A-0554
0199
アジア歴史資料センター

リタルヲ以テ聯和十五年度ヨリ總數三〇〇組合中業績不良ナルモノヲ整備解散セシメタル結果現在ハ地方的特産品取扱組合、自作農創定組合又ハ消費組合等三四組合ヲ殘スノミナリ

三、農業團体ノ整備方針

農會、金融組合及産業組合ノ行フ販賣購買事業ヲ統制シ彼此聯絡協調ノ方策ヲ樹立スルコトハ多年ノ懸案タリシ處昭和十四年末之ガ方針ヲ決定シ昭和十五年度ヨリ実施スベク、之ガ助成ニ要スル経費七十万円ヲ豫算ニ計上シ準備中ナリシガ内地ニ於ケル農業團体統合ノ実情及時局ノ推移ニ鑑ミ暫ク決定セルノ方針ニ根本的ニ再檢討ヲ加フルノ要アルニ至リタルヲ以テ改メテ整備方針ヲ確立シ急速ニ之ガ実現ヲ圖ルベク目下研究シツツアリ

（農務課）

REEL No. A-0554

0200

アジア歴史資料センター

森林資源ノ增殖對策ニ付承リタシ

朝鮮ニ於ケル造林事業ハ(一)國有林野中要存林野ニ對シテハ國費ヲ以テ毎年新植三九三五〇町歩、補植二五〇〇町歩、成林撫育二八三九〇町歩、計九二七四〇町歩ノ官行造林ヲ實行シ不要存林野ハ朝鮮林業開發株式會社其ノ他ノ造林業者ニ貸付造林ヲ爲サシメツツアルガ更ニ造林ノ擴充ヲ圖ル爲分收林制度ヲ創設シ本年度ヨリ實行中ニシテ(二)民有林野ニ對シテハ大正十五年以降三十箇年計畫ヲ以テ國庫及道費ヨリ補助金ヲ交付シ百三十餘萬町歩ノ未立木地、散生地ノ造林ヲ實施スルト共ニ一面保護機關ノ充實ヲ期シ以テ愛林思想ノ宣傳普及並ニ保護取締ノ完璧ヲ圖リ尙荒廢其ノ極ニ達セル林野ニ對シテハ其ノ復舊ノ爲砂防事業ヲ實施シ緑化ノ急遽完成ニ努メ來リタル處時局ノ進展ニ伴フ森林資源ノ需要就中用材需要ノ激增ニ對處サ

ンガ爲昭和十四年間以降三ヶ年計畫ヲ以テ民有林野百萬町歩ノ用材林造成助成事業ニ着手セル外更ニ伐採量增大ノ趨勢ニ鑑ミ昭和十七年度ヨリハ十四ヶ年計畫ニ依リ毎年五萬町歩ノ伐採跡地ノ造林ヲ實施シ從來ノ造林補助事業ノ擴充ヲ計レリ尙時局下軍需用重要資源タルカシヒ、アベマキ及ビウルシニ付テハ林野重要副產物增殖事業ヲ創設シ之ガ增殖確保ニ努メツツアリ

以上施策ノ具現ニ伴ヒ民間ニ於ケル造林熱モ頓ニ勃興シ自力ヲ以テ造林スル者漸ク多キヲ加ヘ現在民有林野造林事業ハ其ノ毎年ノ實施面積十五萬町歩其ノ數量五億萬本ニ及ブト雖モ時局ノ現段階ニ對處センガ爲ニハ更ニ之ガ促進强化ヲ圖ル要アルヲ認メラルルヲ以テ今後二層造林事業ノ擴充强化ヲ期セントス

林產課

REEL No. A-0554

0280

アジア歴史資料センター

一、最近ニ於ケル營林事業收支ノ狀況ト將來ノ方針ヲ承リタシ

營林事業收入ニ在リテハ昭和十四年度以前ハ豫算ヲ超過シツツアリタル處昭和十五年度以降左記原因ニ依リ收入減少ヲ來シツツアリ

(一)鴨綠江水力發電堰堤ニ依ル流筏數量ノ減少（昭和十五年度及昭和十六年度）

(二)軍事輸送強化ニ伴フ木材輸送貨車ノ配車ノ減少

(三)運材資材殊ニ山地ニ於ケル諸物資ノ不足

(四)勞務者ノ不足

之ガ對策トシテ集約的合理的木材生産ニ一段ノ工夫ヲ凝スノ外計畫的輸送ノ實施、各種生産必須資材ノ重點的配給竝ニ國有林野內ニ於ケル食糧增産ニ依ル勞務者ノ確保ニ努メ所期ノ收入ヲ擧ゲ得ルヤウ施策セントス既往五ケ年間ノ收支狀況別表ノ通

林産課

昭和十三年度以降五ヶ年間營林事業收支比較表

年別	收入（円）		支出（円）		差引收入超過（円）	
十三年	一八〇〇九五一九	一六〇	一一〇三五五三二	六〇七	六九七三九八六	五五三
十四年	二六六〇九一〇二	六五五	二三六二一九四七	八七〇	二九八七一五四	七八五
十五年	二二九一四六三六	三六五	一五一六〇七四九	九三五	七七五三八八六	四三〇
十六年	二三九九二八一四	四〇九	一九六七四八二三	四八五	四三一七九九〇	九二四
十七年	三〇一四三三二三	一八二	二二五七一二〇五	六四九	七五七二一一七	五三三

備考　內譯別紙ノ通

REEL No. A-0554
0202
アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0554

昭和十七年度營林事業收支計算表

收入		支出	
種目	金額	種目	金額
官業及官有財產收入	二六一、一四九、〇〇〇円	營林署	一九三、六六九、〇〇〇円
委託林收入	二六一、一四九、〇〇〇	停給	六三、一八一、〇〇〇
收入未濟	一、〇〇〇	事業費	一六、三三一、〇〇〇
從年度ヘ繰越物件ノ價格	一、〇〇〇	總官府	九四、六九三、〇〇〇
收入總計	二六二、三三一、〇〇〇	寫業費（林務諸費）	九四、六九三、〇〇〇
		諸支出金	二、六三一、〇〇〇
		營林豫備費	二、六三一、〇〇〇
		林業施設費	一、三九一、〇〇〇
		受林國有及處分費	一、三九一、〇〇〇
國境地方在勤手當	三、〇〇〇		
國境地方在勤手當	三、〇〇〇		
歲出合計	一六五、九三一、〇〇〇		
前年度ヨリ繰越物件ノ價格	一〇、三一一、〇〇〇		
前年度收入未濟	一、〇〇〇		
支出總計	一七五、九三二、〇〇〇		
差引收入超過額	八六、三九九、〇〇〇		

國有林造林事業ノ現況ト將來ノ方針ニ付テ承リタシ

(一)現況

國有林ニ於ケル造林事業ハ國有林野内ノ未立木地及散生地並ニ年々ノ伐採跡地等ノ要造林地ニ對シ林地ノ實況ニ應ジ人工造林及天然更新ニ依リ更新ヲ企圖シ更ニ補植、手入、撫育等ニヨリ之ガ目的達成ニ努メツツアル外之等ノ造林地保護ノ爲防火線ヲ設置スル等鋭意生產力擴充ノ一環トシテ國家ノ要請ニ應ヘツツアリテ昭和十八年度繰越豫算額四百四十萬圓ヲ以テ十萬二千余町歩ノ面積ヲ實施スルコトトセリ

而シテ之ガ造林成績ハ概ネ良好ニシテ其ノ成績見ルベキモノアリト雖本計畫ノ豫算單價ハ支那事變勃發當時ヲ踏襲シ居ル狀態ナルヲ以テ最近ノ諸物價及勞銀率ニ於テハ計畫面積ノ實行困難ナル實狀ナリ從ツテ昭和十六十七兩年度ニ於テハ次表ノ如ク計畫面積ニ對スル實行面積ハ五割以下ノ實績ナリ

計畫面積ト實行面積對照表

年度	計畫	實行	增減(△)	摘要
昭和十六年度	八五一〇〇町	四〇〇〇五町	△四五〇九五町	
〃 十七年度	一〇〇二五〇	四七〇九六	△五五四〇四	

(二)將來ノ方針

國有林ニ於ケル現在ノ伐採量ニ對スル年々ノ伐採跡地、天然生幼齡林並ニ未立木地、散生地等ノ要造林面積ニ對シテ概ネ之ガ豫算ヲ承認セラレ目下實施中ナルガ昭和十九年度ニ於テハ潤業樹利用增伐ニ伴フ伐採跡地三百町歩ニ對スル造林計畫ヲ樹立シ豫算要求中ナリ

而シテ大東亞戰爭勝迄ニハ今後益々木材ノ需要增加スベキ趨勢ヨリ既定計畫ノ積極的實施ハ勿論今後ノ增伐ニ對スル伐採跡地ノ更新ハ常ニ技術的良心ヲ保持シツツ進ンデ森林資源ノ培養、國土保全ノ完璧ヲ期セムトス

林産課

REEL No. A-0554
0204
アジア歴史資料センター

一、民有林野用材林造成事業ノ現況ト將來ノ方針ヲ承リタシ

時局下用材ノ自給體制確立ノ重要性ニ鑑ミ昭和十二年度以降實施中ニ係ル民有林野利用區分調査ノ結果全鮮ヲ通ジ得ラルベキ要人工造林地二百万町歩ノ内差當リ百万町歩ノ林地ニ對シ國有林ニ於ケル增產施設ト相呼應シ昭和十四年度ヨリ民有林野用材林造成助成二十ケ年計畫ヲ樹立セリ而シテ之ガ實行ニ付テハ林野所有者ニ對シ苗木代金ノ八割ヲ補助スルノ外更ニ補助金ヲ交付シテ實行指導並ニ管理職員ヲ設置セシメ專ラ造林ノ指導並ニ施業ノ的確ヲ期シ以テ將來ニ於ケル木材供給ノ潤澤ヲ圖ラントスルモノニシテ其ノ計畫ノ概要次ノ如シ

年次	造林面積	事業費	仝上ノ内譯 造林費補助	仝上ノ内譯 其ノ他ノ經費	備考
第一年	六〇、〇〇〇町	一〇〇、〇〇〇圓	八一、一二〇圓	一八、八八〇圓	
第二年	四〇、〇〇〇	七三、八三二	五四、〇八〇	一九、七五二	
第三年	五〇、〇〇〇	九六、四四九	七二、六六〇	二三、七八九	
自第四年至第二〇年	毎年 五〇、〇〇〇	計 [illegible]	計 [illegible]	計 [illegible]	
計	一、〇〇〇、〇〇〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	

而シテ本事業開始以來ノ實績左ノ如シ

年度	造林面積 計畫	造林面積 實行	造林面積 增減	補助費 計畫	補助費 實行	補助費 增減
昭和十四年	六〇、〇〇〇町	五、四〇七町	△五四、五九三	一〇〇、〇〇〇圓 (八一、一二〇)	八三、三四四 (八一、〇九九)	△一六、六五六 (△二一)
昭和十五年	四〇、〇〇〇	二三、三三二	△一六、六六八	七三、八三二 (五四、〇八〇)	五六、七九八 (四五、九二一)	△一七、〇三四 (△八、一五九)
昭和十六年	五〇、〇〇〇	二六、一九一	△二三、八〇九	九六、四四九 (七二、六六〇)	八四、三七三 (六九、一七三)	△一二、〇七六 (△三、四八七)
昭和十七年	五〇、〇〇〇	二五、五三一	△二四、四六九	九七、八四四 (七二、六六〇)	八二、八七八 (六四、四九〇)	△一四、九六六 (△八、一七〇)
計	二〇〇、〇〇〇	八〇、四六一	△一一九、五三九	三六八、一二五 (二八〇、五二〇)	三〇七、三九三 (二六〇、六八三)	△六〇、七三二 (△一九、八三七)

備考 一、實行面積ガ計畫面積ニ比シ減少セルハ苗木代ガ豫定ヨリ高價トナリシト豫算節約ノ結果ナリ

二、補助費欄ノ括弧書ハ造林費ニ對スル補助額ニシテ內書トス

本事業ハ大東亞戰爭下益々重要性ヲ加ヘ來リタル木材ノ根本的生產對策ナルヲ以テ是非共將來引續キ實施セントスルモノナリ

林產課

REEL No. A-0554
0205
アジア歴史資料センター

國有林要部分林設定ノ趣旨ト之カ狀況ニ付述リタシ

等現下明瞭ニ於ケル木材ノ根本的增產對策ハ緊急先決事項ニ屬スル處從來ノ木材生產確保施設ノミニ依ル生產量ヲ以テシテハ將來益々激增ノ趨勢ニアル木材ノ需要ヲ到底充足スルコト困難ナル見通ヨリ國有林野中ノ要造林地ニシテ急速官行造林ノ實行容易ナラザル箇所ニ付昭和十八年度以降十年間ニ差當リ三十萬町歩（目下之カ設定區域選定地ニ付調査中）ニ亘リ部分林ヲ設定スル計畫ヲ以テ本制度ヲ創設セリ

而シテ朝鮮ニ於ケル部分林ハ造林目的遂行性ノ充分ナル者ヲ選定シテ用材等ヲ造成セシメントスル制度ニシテ一般用材及鑛業用材ノ增產ヲ計リ以テ森林生產力ヲ擴充セントスルノ外荒廢林野ノ生成ヲ未然ニ防止シ治水並ニ產業上ニ貢獻セントスルカ究極ノ目的ニシテ本制度ノ創設ハ朝鮮ニ於ケル林政上ノ劃期的施策トモ稱スベキモノナリ

本計畫ニ依ル木材生產見込量ヲ示セバ左表ノ如シ

本計畫ニ依ル木材生產量（單位 萬立方米）

年期	伐期四十年ノ場合			伐期五十年ノ場合			摘要
	間伐主伐	間伐	計	間伐主伐	間伐	計	
一	毎年二六		六五〇	毎年二六		二三〇	一期八十年間トス
二	〃		〃	〃		〃	
三	〃		〃	〃		〃	
四	〃	毎年一八五	〃	〃	毎年五二	〃	
五	三九	〃	二、五〇〇	三九	〃	三、四七〇	
六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
計	六五〇	一八五〇	二、五〇〇	二三〇	五二〇	三、四七〇	

備考

間伐ハ新植後二十一年目及三十一年目ノ二回（伐期五十年ノ場合ハ更ニ四十一年目ノ三回）ニ實施スルモノトス

（林產課）

REEL No. A-0554

0206

アジア歴史資料センター

一、朝鮮ニ於ケル森林蓄積量最近五ケ年ヲ比較シ今後ノ時價並ニ用材見込ヲ承リタシ

朝鮮ニ於ケル民有林伐採最近五ケ年間ノ蓄積ヲ比較スレバ左ノ通ニシテ

年次	蓄積 針葉樹（万尺〆）	蓄積 濶葉樹（万尺〆）	蓄積 計（万尺〆）	摘要
昭和十二年	二五五五五	七七七一	三三三二六	
昭和十三年	二六〇一二	七七五五	三三七六六	
昭和十四年	二六六八五	七九一三	三四五九八	
昭和十五年	二六八九三	七五三八	三四四三一	
昭和十六年	二六七一二	七七四一	三四四五三	

即チ昭和十二年次ニ於テ三億三千三百二十六万尺〆ナリシモノガ昭和十六年次ニ於テハ三億四千四百五十三万尺〆ト一千一百二十七万尺〆ノ増加ヲ見タリト雖モ一面之ガ年生長量ハ二千九百七十八万尺〆ト推定セラルルニ反シ最近一ケ年ノ伐採量ハ三千四百六十万尺〆ト推定セラル。

而シテ現在毎年大約十五万町歩ノ造林ヲ實施シツツアルモ其ニ五百余年ノ林貞ヲ開發シ由リ居ルニ不拘其ノ利用可能林ノ蓄積ハ全林野ノ五割程度ニシテ其ノ生長量ハ一千九百七十万尺〆ニ過ギザルヲ以テ結局七割以上ノ過伐ヲ進行シ居リ現状ヲ以テ推移スルニ於テハ向後十ケ年内外ニテ利用可能蓄積ノ全部ヲ伐リ盡ス結果トナルベキニ鑑ミ不九未利用林ノ開發ニ努ムルト共ニ造林事業ノ強化擴充ヲ圖リ森ニ斯成造林ノ保育ニ依リ其ノ生長ヲ急促進セシムベキ方途ニ關シ目下慎重研究中ナリ

REEL No. A-0554
0207
アジア歴史資料センター

(イ)整理ノ状況ハ各年度ニ於テ[illegible]ヲ比較シ[illegible]

年度別	針葉樹		闊葉樹		計		摘要
		歩合		歩合		歩合	
昭和十二	一、[illegible]	一〇〇	一、[illegible]	一〇〇	一、[illegible]	一〇〇	
十三	一、[illegible]	[illegible]	一、[illegible]	一〇一	一、[illegible]	[illegible]	
十四	一、[illegible]	[illegible]	一、[illegible]	一〇二	一、[illegible]	[illegible]	
十五	一、[illegible]	[illegible]	一、[illegible]	一〇四	一、[illegible]	[illegible]	
十六	一、[illegible]	[illegible]	一、[illegible]	一〇二	一、[illegible]	[illegible]	

備考 一、数量ハ各年十二月末立木蓄積ナリ
二、歩合ハ昭和十二年末ニ調査スル蓄積ニ比較ナリ
三、数量ハ昭和十八年十月末ニ調査スル蓄積ニ依ル

(ロ)今後ノ調査

将来ハ各種伐採届ト調査結果トニ基ク蓄積ノ増減ヲ調査シ常ニ適確ナル蓄積ヲ把握シ同ニ鋭ミ恐次施業ノ調整ヲ図リ以テ造林成績ヲ行ヒ一層

之ト密接ニ連絡シ適切ナル伐採ヲ行ヒ一層

特ニ局ノ不死率ニ即應セル利用計画ノ下有用樹種ノ増殖ヲ図リ以テ造林成績

(ハ)出荷見込

用途別	数量	摘要
薪炭用	六〇〇〇〇〇〇〇〇	
製炭用	三五九三三〇〇	
計	六三七四〇〇	

備考 一、年数ハ昭和十九年度出荷見込数量ナリ
二、数量ハ原木初積ナリ

林産課

アジア歴史資料センター
REEL No. A-0554

問　鴨緑江發電事業ト流筏トノ關係及調査ニ付聚リタシ

答　鴨緑江流域ニ於ケル一ケ年ノ降雨水量総ハ九千〇〇〇立方米ニシテ此ノ一部ハ直接ニヨリ發出セラレツツアルモ其ノ大部分ハ鴨緑江ノ流水ヲ利用シテ流筏ニヨリ新義州ニ發出シ來レルモノナリ

鴨緑江ニ水力發電事業設置ノ計畫アルヤ種々之ガ事業ニ付考究ノ結果鴨緑上ヲ曳船ニヨリ曳航シ堰堤ニ至リ堰堤ニ設置シタル流筏路ニヨリ堰堤下ノ新義州ニ至ラシムルコトトセリ。而シテ既ニ完成セル水電堰堤新義州堰堤ニ於テモ同様ノ方針ニ基キ實施セシハ勿論今後近ク完成サルベキ水豆江堰堤切ノ實施セラレタル昭和十六年ノ流筏ニ就テハ堰堤ニ設置セル流筏路ノ效功期待意外ニ遠ク上部ニ到着セシ筏ノ半數以上ハ搬送不能トナリタルモ昭和十七年度ニ至リテハ堰堤流筏路モ元通シ通筏作業ノ繁忙ト相俟チ作業分隊ニ追拔シ前年度迄材及十七年度繰下材ノ治ンド全部ヲ搬送流下セリ然來年々之等堰堤作業隊ニシテ堰堤直ノ急斜新刈事業ニ支障ヲ及ボシタルコト少シ

鴨緑江流域ニ於ケル林業ハ半島林業ノ中堅ヲナスモノニシテ其ノ將來益々進展ヲ期セラレ今五十年後ノ出材量ハ現出材ノ三倍ニ當ルモノト推定セラレ目下後ニハ實ニ四倍ニ上ルノ趨勢ニアリ而シテ將來鴨緑江ニ七箇所ノ堰堤ノ築造セラレタル暁ニ於テハ流筏業ニ及ボス影響ハザルヲ以テ既設堰堤ノ輸送力擴張及新規設置等ニヨリ流筏及發電ノ二本柱トナスコトニ付目下考究中ナリ

林産課

REEL No. A-0554
0209
アジア歴史資料センター

問　豆滿江水電開發事業ト流筏トノ關係及將來ノ方針ヲ承リタシ

答　豆滿江水力發電事業ハ豆滿江支流西頭水ニ二個所ノ堰堤ヲ設ケ貯水スルト共ニ延面水ヨリノ取水ヲ合セ之ヲ羅北川ヲ經テ檢巡川ニ放流スル所謂流域變更式發電方式ナルヲ以テ西頭水延面水及豆滿江ニ於テ從來行ヒ來リシ流筏運材ハ全然不可能トナルベシ

仍テ本流域ヨリ生産スル木材ハ豆滿江及ソノ支流ニ於テ流筏スルコトヲ念シ近ク開通サルベキ白茂線ヲ中幹トシ之ニ連帶セル惠山線及北鮮拓殖鐵道ニヨリ吉州坡津方面及茂山清津方面ヘ鐵道輸送スルコトトセリ即チ山元ヨリ鐵道沿線ニ至ル間ハ既設森林鐵道其ノ他ニシテ水浚ニ繞ルセノハ之ヲ付替ヲ爲スハ勿論取水ニヨリ流筏不能トナリタル河川ニ對シテハ森林鐵道又ハ森林軌道其ノ他ニ依リ白茂線ノ最寄ノ驛ニ直接連帶セシメ或ハ又流筏ニヨルモノ若クハ貯水池内ニ流入スル材ニ對シテハ揚陸ハ桑

蔵ノ貯蓄直積込ノ設備ヲナスモノニシテ水電會社ヲシテ之等ニ要スル施設ヲ爲サシメ水利使用期間中無償ニテ之ヲ使用セントスルモノニシテ此ノ工費概算千五二二六三二一圓ナリ。

然レドモ之等ノ施設ヲ完備セシムルニ要スル經費ハ實ニ七七六三萬ニシテ時局下新カル鋼材ノ入手ハ吾々西鮮ナルヲ以テ本地域中現在比較的出材量少ク且鋼材ヲ多量ニ要スル豆滿江本流及西頭水圓峰下流地域ノ供給ヲ一時中止シ之等ノ地域ニ於テ現在搬出サレツツアル木材ノ數量ヲ延面水流域ニ於テ增送スルコトニヨリ當分間之ガ生産ヲ確保シ他日鋼材事情ノ改善スルヲ俟チテ前記ノ豆滿江本流及西頭水圓峰下流ノ施設ヲナスコトトシ工事ヲ第一期工事及第二期工事ニ分割セリ

第一期工事ニ就テハ近ク實施計畫認可ノ見込ニシテ明春ヲ期シ工事着手ノ見込ナリ

林産課

北鮮開拓事業ノ概況如何

答本事業ハ北鮮地方要存林野二百十六萬町歩ヲ對象トシ右地方ニ包藏スル無盡ノ森林資源ノ開發利用ヲ圖ルト共ニ保安極關ヲ增量シ之カ保護增殖ニ努メ又從來森林被害ノ主因ヲ成セル火田ヲ整理シ併セテ之等火田民ヲ極力自作農トシテ特殊定着セシメ移住殖民ノ先驅タラシムルト共ニ未墾ノ農耕適地等ハ殖民與業ノ趣旨ニ依リ適ク之ヲ開放處分シ同地方産一ノ重要産業タル森林事業ノ進展ヲ圖ラントスルモノニシテ昭和七年度以降同二十一年度迄十五ヶ年間ニ約千二百萬圓ヲ以テ事業ニ着手セルカ財政ノ關係上法定額殆ノ歩充ヲ終スル能ハズ即チ昭和十八年度迄ニ於ケル計畫ニ依ル設定總千百六十五万圓ニ對シ換算額ハ九百六十万圓ノ減ヲ示セリ

次ニ本事業ノ實行狀況ヲ總テレバ左ノ如シ

森林ノ利用開發　本邊殷ハ白頭山ヲ中心トスル森林約八千萬町歩ヲ目標的トシ森林鐵道二三三粁四及森林軌道二六四粁九ノ施設ヲ容認セラレタルモノナリ内譯次ノ通

森林鐵道　二三三粁四　三八六六九二〇圓

茂山線　一三六〇〃　三六五三三二六二〇〃

惠山線　九五四〃　二、三四六七三八〇〃

森林軌道　二六四九〃　一、三九五〇九六〇〃

五一七二〇一六圓

既定計畫ニ依レバ工事ハ昭和八年度ヨリ着手シ同十五年度迄八ヶ年間ニ完成ノ豫定ナリシモ實行ハ九年度ニ至リ以降昭年度八年度豫定量ノ約半量タル森林鐵道十五粁及森林軌道十九粁ノ經費ヲ容認セラレ今日ニ及ベリ内譯左ノ通

森林鐵道　二三三粁四　三六六九二〇圓

茂山線　一三六〇〃　一八三五三九〇〃

惠山線　九五四〃　一七〇四八〇〃

森林軌道　二六四九〃　九二六九一〃

計　三四六八六一圓

而シテ之カ實行ニ當リテハ豫算ノ範圍内ニテ實施ノ狀況及所伐計畫等ヲ勘案シ引續キ實行中ナル本物價ノ昂騰其ノ他ニ因リ昭和十七年度末迄ニ森林鐵道ノ計畫ノ七三%タル九九粁ヲ又森林軌道ハ五五%ノ九四

REEL No. A-0554

0211

アジア歴史資料センター

行又實行セル三過ヶ月内譯左ノ通

丁種	昭和十七年度末迄ノ繰越累計	昭和十七年度新規貸付累計	摘要
	一三五件	九九件	
森林鐵道	二、二八五、三〇〇	西八	
茂山線	二、六三一、四一〇	五一	
惠山線	六三四、三二〇		
森林軌道	一七一、八三六〇一九	九四	內六件ハ水害ニヨリ流失

森林ノ保護　從來本邦方面森林ハ保護公有森林主事一人當平均擔當面積約二萬町歩ノ多キヲ算シ其ノ結果森林ハ殆ンド無保護ニ近キ有様ニシテ特ニ本年ノ如キ旱魃ニ際シテハ山火等ハ被害相亟キ為年一萬数千町歩ノ森林ヲ灰燼ニ歸セルカ本計畫ニ依リ保護職員ヲ増員シ現在一人當度當面積約七千町歩トシ極力速元民ノ啓導ト監視ノ周密ヲ期シ被害ノ豫防防止ニ努メ來レル結果年平均千餘町歩ノ僅少ニ止リ又火田ノ新設置禁止殆ト其ノ跡ヲ絶ツニ至レリ然レ共近時戦爭下人夫難ニ基ク森林資源ノ枯渇、水電工事、木材事業及林野ヲ對象トスル食糧増産等山地産業ノ勃興ニ伴ヒ入山者激増シ森林被害ノ危險ハ益々増大シツツアルヲ以テ極力當務機關ヲ督勵シ被害ノ未然防止ニ努メツツアリ

火田民ノ指導　現耕火田民ハ約三萬戸二千一萬人ノ多キニ達スルカ此等ノ指導ハ道ノ警察下ニ火田民五百戸ニ一人ノ割ヲ以テ指導員ヲ現地ニ配置シ主副業ノ指導奬勵ニ當ラシムルノ外施肥奬勵金給與ノ制ヲ設ケ農耕法ノ改善ニ努メツツアル結果火田民ハ官ノ指導ニ眞ニ悅服シ漸次定着ノ兆候ヲ示シ勤勉ナル自作農トシテ農産物ノ増産ニ精進シツツアリ

農耕適地ノ處分　現存林野二百十六萬町歩中約三十萬町歩ハ開放處分支障ナキカ右中約十萬町歩ハ火田民ノ定著用地トシテ充當ノ要アルモ森林ノ約二十萬町歩ハ道長製業ノ關係ニ基キ昭和九年度ヨリ同十八年度迄十ヶ年間ニ一段ニ開放處分スルコトトセルカ昭和十八年十月迄ニ其ノ六六%タル約十三萬二千町歩ノ處分ヲ了セリ

尙元朝鮮拓殖株式會社ノ事業ヲ継承セル東洋拓殖株式會社ニ於テハ新ニ

REEL No. A-0554
0212
アジア歴史資料センター

北鮮開發株式會社ヲ設立シ本府ノ北鮮開拓事業計畫ニ順應シ北鮮高地帶ヲ開發シテ半島ノ人口誘致及農林資源ノ培養ヲ圖ルベク既ニ前記一般開放處分豫定地為一二萬一千餘町歩ノ貸付ヲ受ケ之ニ約千四百人ノ移民ヲ招致實行中ナリ。

（林産課）

REEL No. A-0554

0213

アジア歴史資料センター

一、砂防事業ノ計畫ノ概要、實績及將來ノ方針ヲ承リタシ

(一) 山地砂防事業計畫ノ概要

砂防事業ハ大正十一年度ヨリ昭和九年度迄ノ間ニ施行シタル國費繼續事業ノ外ハ昭和六年度以降ニ於テ窮民救濟事業、時局應急施設事業或ハ旱水害對策事業トシテ當時ノ社會情勢ニ應ジ實施シ來リタルガ昭和八、九兩年ニ於ケル洛東江ノ大水害ニ鑑ミ從來ノ實施方法ヲ以テシテハ到底所期ノ目的ヲ達成シ能ハザルヲ以ツテ第二期計畫トシテ昭和十年度以降十五ケ年間ニ差當リ急施ヲ要スル十二萬七千百八十町歩ニ對シ事業計畫ヲ樹テ第六十七議會ノ協賛ヲ經テ事業ニ着手ヤリ然ルニ昭和十一年夏ニ中南鮮一帶ニ亘リ又々大洪水アリ被害極メテ甚大ナリシヲ以ツテ之ガ根本的對策樹立ノ緊要ナルヲ痛感シ昭和十一年十月總督府ニ於テ治水調査委員會ヲ開催、審議ノ結果之ガ對策トシテ本事業ノ大々的實施ヲ計畫シ愛ニ樹立セル計畫ヲ變更シ昭和十年度以降十七ケ年間ニ八千六百六萬八千六百四十圓ヲ投ジテ二十四萬九千百二十六町歩ノ復舊ヲ圖ルコトトシ目下右計畫ニ依リ實施中ナリ

即チ計畫内容左ノ如シ

事業名	施行期間	施行面積	事業費	國庫補助	事業費負擔割合 道費	地元
國費事業	自昭和十年度至昭和二十六年度 十七ケ年	四二〇〇〇町	二、一七二、五〇〇圓	一〇〇%		
直費事業						
洛東江流域事業	自昭和十年度至昭和十九年度 十ケ年	七二、五〇〇	二七〇、一五〇、〇〇〇	八〇	二〇	
東海岸畿道濊貊保全事業	自昭和十二年度至昭和二十一年度 十ケ年	五八、六八〇	二六、一二四、五〇〇	六〇	二〇	二〇
民營事業	自昭和十二年度至昭和二十六年度 十五ケ年	四九、七七六	一八、四〇一、一二〇	六〇	二〇	二〇
計		二四九、一二六	八六〇、六八六、四〇〇			
			九九、三五八、〇〇〇	七〇	二〇	一〇

(二) 事業ノ實績

大正十一年度以降繼續實施シタル國費事業及窮民救濟事業、時局應急事業又ハ旱水害對策事業ニ依リ五萬九千六百六十三町歩又第二期計畫事業ニ於テ昭和十年度以降昭和十六年度迄ニ二十一万七千三百三

REEL No. A-0554

0214

アジア歴史資料センター

十一町歩合計十七万六千九百九十四町歩ヲ施行セリ而シテ本事業ノ成績ハ其ノ實施ガ最近ノコトニ屬スルモ拘ラズ著メテ顯著ナル效果ヲ擧ゲツツアリ即チ

(1) 土砂ノ流出防止ニ依リ洪水、地附近ノ農耕地ノ被害ヲ著シク減ジ又ハ農耕適地ノ復舊ヲ可能ナラシメ食糧增産ニ寄與スル外家屋、道路、鐵道等ノ破害ヲモ減ジツツアルコト

(2) 昭和十六年度ニ於テ約六百五十万貫ノ竹、枝條ヲ伐出シ地元ニ於ケル燃料需給ニ寄與シ林野ノ濫伐等ノ弊風ヲ矯正シツツアルコト

(3) 瓦斯用木炭ヲ昭和十六年度ニ於テ十五万表(二十瓩入)ヲ生産セルコト

(4) 軍需トシテ重要ナルタンニン資源トシテヤシヤブシ球果ヲ年々一万石程度供出シツツアルコト

○三、耕地保全事業(野奚工事)

(一) 概要

朝鮮ニ於ケル奚川ハ荒廢禿澤林野ノ影響ヲ受ケ土砂ノ堆積激シク大部分ノモノハ天井川ヲ形成スルニアリ而シテ山地ノ荒廢ニ對シテハ砂防事業ノ施行ニヨリ漸次面目ヲ改ムルニ至リタルモ之等野奚ハ治水利水施設ノ效果ヲ阻害スルコト甚シク比年洪水、旱魃ノ慘禍ヲ惹起シ交通、産業將ニ食糧增産ニ及ボス處計リ知レザルモノアリタルニ鑑ミ昭和十五年全鮮ニ亘リ之等野奚ニ付實地調査ヲ行ヒタル結果整備ヲ要スル總延長一万六千九十七粁ニ達シ內既ニ上流山地帶ノ砂防事業完成シ其ノ下流ニ於テ農耕地保全上ノミナラズ道路、鐵道、貯水池等ノ重要施設ニ大ナル關係ヲ有スル野奚延長二千五百二十粁ニ及ブモ不取敢京畿道以南七ケ道ニ於ケル九百四十粁ニ對シ自昭和十二年度至昭和二十年度五ケ年間ニ總事業費六百七十六万八千圓ヲ以テ整備改修工事ヲ實施スルコトトナリタリ斯クテ事業實施以來第三年目ニ入リタルガ既往ノ實績ハ直接被害ノ防除ハ之ヨリ荒廢地ノ復舊利用等事業成績洵ニ顯著ナルモノアリ其ノ間大東亞戰爭ノ勃發ニヨリ食糧ノ需給ハ益々逼迫シ之ガ增産施設ハ愈々喫緊ノ要務トナリタルヲ以ツテ昭和十八年第二豫備金支出ニヨル緊急食糧增

REEL No. A-0554

0215

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

REEL No. A-0554

0 0 1 6

道府県名	昭和十六年度 延長	昭和十六年度 繰越	昭和十七年度 延長	昭和十七年度 繰越	摘要
京畿	一、三一四、八六六	一、三一八、六四四	一、三〇七、五四五	九、三一八、四四四	軍業管理機制令
黒北	九、六八八	一、三一七、六四四	九、三四七	九、四六七、七八八	國庫補助金制
黒南	七、六一一	八、七七九、九九九	七、六六〇	六、四三七、七七〇	道管理制
全北	一、三四三、〇	一、六三〇、一八六	一、九三三、八	一、七三一、三〇	地元制
全南	七、九一三	八、六一七、三三	八、三九〇	七、〇一七、九六六	
慶北	四、三六六、八	四、三一七、四一六	六、六三一、〇一	三、六六六、六一三	
慶南	三、四一六、七七	三、〇〇〇、四六一	一、九一九、七	今、三三三、四	
計	一、三三六、一六六	三、三九一、七三三	一、四六九、三〇	今、九七六、〇一一	

(二) 命令濟

延長三百七十六萬圓ヲ以テ事業費ニ充テ

三、特殊人方針

昭和十七年度末ニ於ケル荒廢林野八十万九千六百四十一町歩ニ達ス

警察官ノ一部ヲ以テ早魃事業擴充費ノ要アルモノト認メラル

補助金ノ給付策ノ一部トシテ此ノ

感セラルルヲ以テ食糧事情ノ許スト限リ速ニ之ガ復舊計畫ヲ

修繕急務ナルヲ時局ノ進展ニ伴フ

荒廢林野ニ付テハ將來事情行スル計畫ナル

立セントス

旬日ノ間ニ

千九百八十四町歩ニ対シテハ

十八年度以降昭和二十六年度迄ニ

ルガ右ノ内十二万八千五百五十七町歩ハ

ナルガ

見込ナ

林産課